

# 「北方無比の天啓の地」鹿角を再び！

鹿角の歴史・産業・伝統・文化はたいへん奥の深いものです。大湯環状列石は縄文時代後期（約4,000年前）の遺跡で国の特別史跡に指定されていますが、これは秋田県内では唯一、北海道・北東北縄文遺跡群ではほかに三内丸山遺跡があるのみですから、これらの遺跡群を代表する重要な遺跡といえることができます。八郎太郎伝説によると、十和田湖は何千年も前に竜となった八郎太郎によって造られ、その後南祖坊に奪われてしまいます。その闘いの激しさは十和田火山の噴火の凄まじさを伝えていますが、鹿角の自然や地形はこれと深く関わっています。

西暦450年頃の鹿角は「狭布の里」と呼ばれていました。「錦木塚」の悲恋物語は都に伝わって人々に感涙を絞らせ、無数の歌を生み、室町時代には世阿弥による謡曲で一世を風靡しました。「ダンブリ長者伝説」で継体天皇が吉祥姫の求めに応じて大日堂を建てたのは西暦522年、大日堂舞楽の始まりは西暦718年とされていますが、これらの伝説にまつわる遺跡や舞楽が現存し、今日まで続いているのは驚異というほかありません。

奥州藤原氏は平安時代末期の約100年間、東北地方一帯を治めていましたが、その黄金文化には鹿角の金が多量に使われていたといわれています。慶長年間（1596～1615）には白根・尾去沢に爆発的なゴールドラッシュが起こります。金山は幕府の厳重な管理下に置かれ、その後銅山となりました。江戸時代、延べ九回にわたって巡見使が鹿角を視察していますが、鹿角は鉱山を持つ重要地域だったわけではありません。巡見使は風光明媚な景色を眺めたり、錦木塚伝説を聴いたり、見事な南部馬を愛でるなど、鹿角の自然や文化の豊かさを満喫しています。

鹿角のこうした伝統文化は主に南部という風土の中で形成されてきましたが、戊辰戦争・明治維新・廃藩置県で大きく様変わりしました。鹿角は「北方無比の天啓の地」であり、賊軍である南部に置くのは罷りならぬというのが新政府の方針でした。秋田県に編入されることにより、鹿角は様々な面で県都からは遠隔の地となりました。

しかし内藤湖南先生はじめ明治の先人たちは、こうした逆風の中で自ら道を切り開いていきました。これは必ずしも彼らだけの力ではありませんでした。国際教養大学の初代学長である中島嶺雄先生は、内藤湖南を生んだ鹿角の教育風土を高く評価しておられましたが、当時の鹿角は多くの優れた人材を輩出しています。つまりそれは個々人の力であると同時に地域の力でもあったのです。今日こうしたことを知っておられる方は少なくなりましたが、鹿角にはそうした底力があるのです。それを失わせることなく、さらに強化して未来に引き継ぐことこそ私どもの使命と考えます。私が「鹿角産業文化研究所」を設立し「鹿角学」を開設した意義はここにあります。

今日、鹿角市先人顕彰館を中心に和井内貞行や内藤湖南に学ぶ小中学生や、「郷土の先人に学ぶ」あるいは「鹿角学」といった形で鹿角の歴史産業伝統文化を学ぶ中高生がいます。子供たちはこうした学びの中で郷土への愛と誇りを育もうとしています。これをさらに市民全体に広げていかなければならないと思います。それが豊かな自然に恵まれ、世界遺産級の伝統文化をいくつも持つ鹿角の、市民としての矜持ではないかと考えています。

## 関 厚（せき あつし）のプロフィール

昭和29年（1954）2月14日 鹿角市花輪に生まれる  
昭和47年 花輪高等学校卒業  
昭和51年 京都大学卒業  
昭和51年 農林水産省入省、農政・林政に取り組む  
平成 元年 農林金融公庫  
平成 6年 福島県庁森林土木課長  
平成11年 林野庁基盤整備課長  
平成15年 中部森林管理局長

資 格 技術士 林業技師 衛生管理者  
主な役職 鹿角産業文化研究所代表  
花輪高等学校同窓会長  
鹿角かるた会副会長（～令和元年）



鹿角市花輪字上花輪344  
電話・FAX 0186-23-2125  
携帯 090-2455-7653  
mail [seki1954@icloud.com](mailto:seki1954@icloud.com)